

投資事業評価調書（新規）

部課室名	農林水産部農林水産局 農村環境課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 青野 正 (小川 至紀)	内線 (3946)	3931
------	---------------------	-------------------------	------------------------	------------------	------

事業種目	中山間地域振興対策	事業名 新山村振興等農林漁業特別対策事業	事業区間 生野地区	総事業費 内用地補償費	約3億円 —
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
生野町栃原、黒川地内ほか			H15	H15	H18
事業の目的			事業内容		
<p>中山間地域の特性を踏まえつつ、地域農業の振興や都市との交流、定住条件の整備を総合的に振興することにより、活力ある地域づくりを推進する。特に本地区は、地域の個性を生かした農業振興と都市との交流に重点を置いた地域振興施策を展開する。</p> <p style="text-align: center;">事業主体：生野町ほか</p>			<p>滞在型体験農園(コテージ付き農園) 10棟 (国50% 県2% 町48%) 農林産物直売施設 1棟 72㎡ (国50% 県7% 町43%) 農林産物処理加工施設 1棟 270㎡ (国50% 県7% 町43%) 農業経営改善安定施設(ハウス)5棟 (国50% 県0% JA50%)</p>		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	<p>生野町では、H8年度に住民参加による「生野町総合計画」を策定し、平成9年6月から「地域づくり生野塾」を発足させ、先に策定した総合計画の具体化に取り組んでいる。取り組みの内容として、遊休地解消のための貸し農園(日帰り)、定住促進のための空き家バンク制度の創設、味噌等の特産品開発の奨励など、地域住民の発意による取り組みを推進してきた。しかし、農地面積が95ha(46a/戸)と少なく経営規模が零細であり、高齢化とともに担い手も減少しつつあり、さらなる農地の荒廃等が懸念される。一方、生野町は、市川・円山川の源流地域であり、自然豊かな地域でもあるため、それら資源を活かした都市との交流を住民の参画と協働のもと、積極的に推進し、魅力ある地域づくりに努めることが必要である。そのため、住民の発意による滞在型体験農園等のこれら取り組みを支援することは、交流人口の増加等につながるとともに、地域の活性化が期待できる。</p>				
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施により下記の効果が期待できる。 滞在型農園の整備による耕作放棄地の解消。 特産品開発・販売や新規作物(ハウスいちご)導入による所得の増加。 地域住民の活力向上。 交流人口の増加。(年間1,000人増加) ・投資効率 1.19 ・用地等地域の協力体制も整っている。 				
(3)環境適合性	<p>資源の有効利用と循環を図るため、事業で実施する施設については、極力木造とし、内装についても木質化に努める。また、施設の周辺は緑化に努めるとともに、景観等へも配慮する。</p>				
(4)優先性	<p>関連する中山間地域総合整備事業生野地区(H14年度採択)と連携して実施することにより、中山間地域振興への相乗効果が期待できるとともに、本県が進める「アグリライフの推進」の県民への提案やPRにも効果的である。そのためH15年度からの実施が必要である。</p>				

